

## 〔別記様式第 13 号〕

### 福井北圏域(福井県) 総合水産基盤整備事業計画

#### 1 圏域の概要

##### (1) 水産業の概要

###### ① 圏域内に位置する市町村および漁業協同組合の概要

福井北圏域には、福井県漁業協同組合連合会を主とし、坂井市に 3、福井市に 2、越前町に 1、の合計 6 の漁協がある。

###### ② 主要漁業種類、主要魚種の生産量、資源量の状況

福井北圏域の主要漁業種類は、令和元年度で、底曳網(全体の約 41%)であり、福井県の魚として全国的にも知名度の高い「越前がに(ズワイガニ)」や、アカガレイ、ホッコクアカエビ等を漁獲している。大型定置網(生産量全体の約 34%)では、魚種として、ブリ、サワラ等を漁獲している。いか釣り(全体の約 9%)も盛んである。

「越前がに(ズワイガニ)」については、昭和 30 年代の乱獲等が原因で、一時期は約 1,000t あった漁獲量も、昭和 55 年には約 230t と 1/4 近くまで減少した。そのため、資源量の回復を図る目的で漁獲量の制限や保護育成場の整備に着手した。その効果は顕著であり、平成 5 年には漁獲量 352t、平成 10 年には 435t、平成 20 年には 523t、平成 26 年には 420t、令和元年には 375t となっている。また、「サワラ」については、平成 15 年で 642t であったが、平成 20 年には 1,959t、平成 25 年には 2,729t、令和元年には 1,815t と漁獲量が伸びている。

###### ③ 水産物の流通・加工の状況

福井北圏域は 2 つ(三国、越前)の主要な産地市場を有している。底曳網及びいか釣りにより陸揚げされる漁獲量(ズワイガニ、アカガレイ、ホッコクアカエビ、イカ等)の取扱量が多い。産地市場から主に県内(小売、スーパー等)に搬出、もしくは県外に搬出される。

###### ④ 養殖業の状況

福井北圏域は冬季風浪が強く、養殖には不向きな地域であるため、現時点では養殖業における生産量が「0」であるが、地球温暖化による水温の上昇や天然資源の減少、漁業者の高齢化等に対応するため、陸上養殖や泊地を利用した養殖の導入等についても検討していく。

###### ⑤ 漁業経営体、漁業就業者(組合員等)の状況

令和元年の圏域内の組合員数は 2,298 人であり、平成 26 年度が 2,904 人であったことから、5 年間で 606 人減少している。廃業や、後継者不足等の問題があり、福井県としても、水産業を受け継ぐ人を育てることを課題に、県内水産物の PR や低コスト・高収益型漁業への転換等を模索している。

###### ⑥ 水産業の発展のための取組

福井県では平成 27 年 3 月に「ふくいの水産業基本計画(H27~H31)」を策定し、5 年間で安定的な生産の実現、販売チャンネルの拡大と地魚消費量の増大による浜値の向上、操業

・経営の合理化によるコスト削減、豊かなさとうみ資源を活用した経営の多角化に取り組んだ。

これまでの成果をステップとし、基本理念『「福井の海をフル活用！」豊かな浜のくらしを実現』の基、新技術を活用した養殖生産の拡大と天然資源の持続的利用、スマート水産業の推進と担い手の育成による生産力の向上、交流人口増加を見据えた地魚の販売促進と漁村地域の魅力の最大化を目指す「ふくいの水産業基本計画（R2～R6）」を策定し、数値目標達成のための取り組みを進めている。

⑦ 水産基盤整備に関する課題

機能保全計画書（個別施設計画書）に基づき、老朽化した漁港施設の長寿命化工事を実施しなければならないが、特に市町管理漁港では補助事業の要件を満たせない場合が多く、また関係市町の財政状況を考慮すると補修工事および予防保全工事が進まない状況である。

耐用年数をむかえる施設も数多く、施設の崩壊時には重大な事故及び予算を要するため、非公共事業の活用や漁港施設の再編・整理を検討してもらうよう、関係市町と協議を行いたい。

⑧ 将来的な漁港機能の集約化

現時点では漁港施設の統合や廃止、同一漁港内での機能再編の予定はないが、ストック効果の最大化や、効率的・持続的な管理運営を図るため、漁港機能の集約化の検討を行いたい。

(2) 圏域設定の考え方

① 圏域タイプ	流通拠点型	設定理由；水産物を集約する産地市場を有する流通拠点港でセリ等を行い、消費地や加工場へ出荷するため。
② 圏域範囲	流通拠点（一般）型	設定理由；下記漁港に水産物を集約して、消費地や加工場へ出荷するため。
③ 流通拠点漁港	越前漁港	設定理由；福井県の魚である「越前がに」の水揚が県下随一であり、越前がにの流通の拠点となるため。越前漁港は産地市場を有し、属地陸揚金額 10 億円以上を満たしているため。(3,050 百万円)
④ 生産拠点漁港	浜坂漁港 鷹巣漁港 茱崎漁港	設定理由；一定の港勢を有するため。
⑤ 輸出拠点漁港	該当なし	設定理由；

(令和元年)			
圏域の属地陸揚量(トン)	5,608t	圏域の登録漁船隻数(隻)	624
圏域の総漁港数	18	圏域内での輸出取扱量(トン)	0
圏域で水産物の水揚実績がある港湾数	1		
当該圏域を含む養殖生産拠点地域名	福井県地域		
対象魚種	サケ・マス類(トラウトサーモン)		
魚種別生産量(トン)	118.9t (5年以内に400tの予定)		
魚種別海面養殖業産出額(百万円)	141百万円 (5年以内に480百万円の予定)		

## 2 圏域における水産基盤整備の基本方針

<p>(1) 産地の生産力強化と輸出促進による水産業の成長産業化</p> <p>①流通拠点漁港等の生産・流通機能の強化</p> <p>福井港の市場において、衛生管理型の荷捌き所への改修が完了し、越前漁港の市場においても、新しい衛生管理型荷捌き所の整備を予定しており、全国的にも有名な「越前がに」や「ふくい甘えび」「越前がれい」のブランド化をさらに進め、特色ある産地市場づくりに取り組む。</p> <p>また、整理・再編された産地市場からの入荷によるスケールメリットを活かした魚価向上を実現させる。</p> <p>②養殖生産拠点の形成</p> <p>福井北圏域は冬季風浪が強く、養殖には不向きな地域であるが、地球温暖化による水温の上昇や天然資源の減少、漁業者の高齢化等に対応するため、陸上養殖や泊地を利用した養殖の導入等について検討していく。</p> <p>(2) 海洋環境の変化や災害リスクへの対応力強化による持続可能な漁業生産の確保</p> <p>①環境変化に適応した漁場生産力の強化</p> <p>漁業生産量は、昭和49年をピークに減少傾向にあり、近年はピーク時の約3割程度となっている。このため、水産資源の増大を目指し、水産生物の動態および生活史に配慮した漁場整備を進める必要がある。</p> <p>このことから、底生魚介類の生息環境改善のため海底耕うんや、ふくいが誇る「越前がに(ずわいがに)」の漁場造成のため海底作滞、藻場ビジョンに基づく藻場の保全、公共事業やソフト事業、県独自調査によるモニタリングを行い、生育環境の改善、保全を図ることによって、海域全体の生産力の底上げを目指す。</p>
--

## ②災害リスクへの対応力強化

防災拠点漁港である越前漁港、栗崎漁港では、耐震強化岸壁を有しているため、令和元年に県、町、地元の漁業者と共にBCPを策定しており、BCP訓練や勉強会の結果を踏まえ、既存のBCPを改善していく。

その他の漁港においては、荒天時の漁船の安全確保、漁港施設の適切な維持管理のため、これまでの機能保全計画に基づき計画的に保全工事を進めていく。

## (3) 「<sup>うみぎょう</sup>海業」振興と多様な人材の活躍による漁村の魅力と所得の向上

### ①「<sup>うみぎょう</sup>海業」による漁村の活性化

素潜り漁やタコつぼ漁、干物作りなどの漁業体験プランの充実や渚レストランの整備を進め、漁家民宿への宿泊と漁業体験をエリア周遊型観光プランとして提案すること等により漁家民宿への誘客を促進する。

### ②地域の水産業を支える多様な人材の活躍

女性や若者から高齢者まで、幅広い世代の方が安全で働きやすい環境と快適な生活環境を整備する。

また、新規漁業就業者や若手漁業者の独立就業への支援を実施する。

## 3 目標達成のための具体的な施策

### (1) 産地の生産力強化と輸出促進による水産業の成長産業化

#### ①流通拠点漁港等の生産・流通機能の強化

- ・越前漁港では、新しい衛生管理型荷捌き所の整備を予定している。
- ・整理・再編された産地市場からの入荷によるスケールメリットを活かした魚価向上を実現させる。

#### ②養殖生産拠点の形成

- ・トラウトサーモン（ふくいサーモン）の種苗生産施設を拡大し、令和6年に生産量400tを目指す。
- ・陸上でのアワビ中間育成やバフンウニの養殖、泊地を利用したカキ類等の養殖導入について検討する。

### (2) 海洋環境の変化や災害リスクへの対応力強化による持続可能な漁業生産の確保

#### ①環境変化に適応した漁場生産力の強化

- ・堆積物等により、漁場の環境の悪化が進んでいることから、底質改善するため、海底を耕耘する。これにより、ズワイガニ、アカガレイ、ホッコクアカエビ等の漁場を守る。
- ・藻場状況をモニタリングし、藻場造成の効果や藻場ビジョンに利用する。
- ・漁業者等の漁場保全活動や種苗放流、資源管理の取り組みと連携することで、良好な環境の保全・管理を図る。

## ②災害リスクへの対応力強化

- ・ 荒天時の漁船の安全確保、漁港施設の適切な維持管理のため、これまでの機能保全計画に基づき計画的に保全工事を進めていく。

## (3) 「海業」<sup>うみぎょう</sup>振興と多様な人材の活躍による漁村の魅力と所得の向上

### ① 「海業」<sup>うみぎょう</sup>による漁村の活性化

- ・ 既存施設を活かし、従来の定置網乗船体験や釣り船体験のほか、磯での素潜り漁体験やタコつぼ漁体験なども加え、獲れた魚介類は、さばき方教室や干物作り教室などを開催する。
- ・ 漁村のお祭りや伝統行事への参加など、伝統文化に触れる体験プログラムを提供する。
- ・ 観光部局と連携し、漁家民宿への宿泊と漁業体験をエリア周遊型観光プランとして提案する。

### ②地域の水産業を支える多様な人材の活躍

- ・ 水産カレッジを修了し一人前になった若手漁業者を「水産フレッシュアドバイザー」に育成し、相談員や講師として新規就業者を支援する。
- ・ 定着促進貸付金の拡充や市町の住居支援の活用とあわせ、船舶免許等の資格取得を推進し、新規就業者の定着と自立を支援する。
- ・ 衝突防止装置や落水自動通報機などの安全対策と、軽量化されたスマートスーツや定置網の自動網上げ機など省力化機器の導入を進め、漁業の就業環境を改善する。

## 4 環境への配慮事項

現在までに、水質や生物の継続的なモニタリングを実施してきたが、多大な環境への影響は無いと考えている。

環境に配慮した取り組みとして、LED照明や電動フォークリフト等の導入、工事看板等への間伐材利用に取り組んでいく。

## 5 水産物流通圏域図

- ・ 別添図のとおり

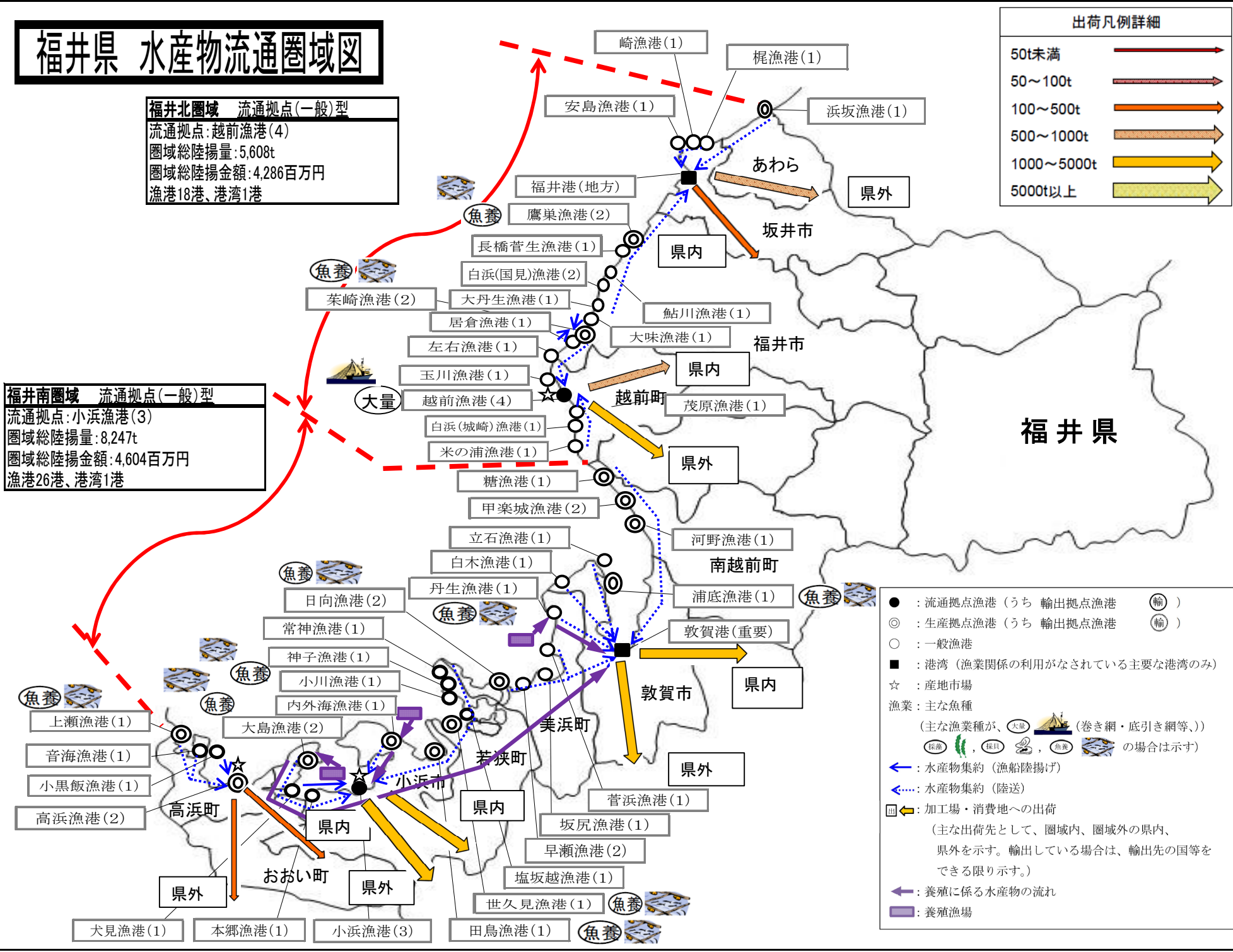
# 福井県 水産物流通圏域図

**福井北圏域 流通拠点(一般)型**  
 流通拠点: 越前漁港(4)  
 圏域総陸揚量: 5,608t  
 圏域総陸揚金額: 4,286百万円  
 漁港18港、港湾1港

**福井南圏域 流通拠点(一般)型**  
 流通拠点: 小浜漁港(3)  
 圏域総陸揚量: 8,247t  
 圏域総陸揚金額: 4,604百万円  
 漁港26港、港湾1港

出荷凡例詳細

50t未満	
50~100t	
100~500t	
500~1000t	
1000~5000t	
5000t以上	



- : 流通拠点漁港 (うち 輸出拠点漁港 (輸))
- ◎ : 生産拠点漁港 (うち 輸出拠点漁港 (輸))
- : 一般漁港
- : 港湾 (漁業関係の利用がなされている主要な港湾のみ)
- ☆ : 産地市場
- 漁業: 主な魚種  
 (主な漁業種が、 (巻き網・底引き網等、))  
 (魚), (貝), (魚) の場合は示す)
- : 水産物集約 (漁船陸揚げ)
- : 水産物集約 (陸送)
- : 加工場・消費地への出荷  
 (主な出荷先として、圏域内、圏域外の県内、  
 県外を示す。輸出している場合は、輸出先の国等を  
 できる限り示す。)
- : 養殖に係る水産物の流れ
- : 養殖漁場